

未だ拜芝を得ず其墓札
謹呈仕時之炎暑難堪
以座交先以之

御清穰 社為酒 奉恭賀

玉井一頁事色、中下底を蒙
神に難者原く、所禮中上は

早速 小生より中下上、交

遲延 今より及ぶ先禮の以事何

半河海海、此由ふなる事上

羽々回、所珍藏之、中相江

信筆、山房、峯、林、係、上、所

回、文章、特別、を、以、而、惠、賜

此、由、右、に、以、度、帰、者、は、愚、邪、亦

縷、の、節、意、の、次、第、拜、承、侍、矣、子

感激、不堪、折、角、の、思、召、付

謹て頂戴仕候 一頁より

縁を 相江予は

弊宗先祖、田中忠右衛門一信の弟

六男、子省之、弱年より、國を、出、江

戸、に、遊、学、致、し、柳、澤、氏、を、去、り、後

富、吉、史、と、愛、名、仙、臺、を、亦、不、以、

寓、し、我、事、に、家、譜、並、に、父、祖、の、話、を

承、居、我、に、明、細、に、分、り、か、收、甚、た、遺

憾、に、存、在、我、交、昨、年、一、頁、攝、州、池

田、の、始、め、展、墓、致、し、蹤、跡、漸、く

お、分、り、本、懐、を、存、打、柄、傳、に

賢、主、室、より、愚、亦、一、相、江、真、筆

賢主より愚者へ相江真筆
書翰物より割愛せしむる小生
驚喜堪はず親くお見する
數代前の叔父に逢ふに心地
沖情實に難忘長く家寶
として大切に可成保つて
然るに今回御手元唯一ある
他の一幅志も長篇小生へと贈る

御授賜を承らるる
御恩情の切なる

小生何の辭を以てか之を酬い
べき

誠に感銘の以奉
筆も言も

心の百多一をだも表け
益々

殊に今回御惠賜を以て文章は

拙漁餘適も記載者之又

先哲叢談石川文山の條下

引用せらるる相江得意の文かと
多し

小生の朝夕恍惚とぞお見
致し

筆の運び墨の色神款
鬚方

切弁 實に老叔父の如
次眉を

作する心地致し是れ
今も御意の

結果を御恩永くお
忘れ不申

重んじ置かして秘
伝侍子孫に

お傳へ可申を返
さす感銘の

至り奉深謝

名に甚な粗雑御
禮に上度

乱筆拙文何れも拙
漁の程

奉深謝

名甚乍粗雅 淨禮中上度

乱筆拙文何意少推讀の程

偏に有希上

草と紙

大正四年七月廿日

田中一宮

拜

市嶋謙吉様

御侍曹

追白一頁より以謙曰氏等と
 當地方の演説より謙曰氏は
 時出止及帰京後一頁の分
 かし滞在のつもり宜しく
 中分 當地方中への暑氣
 室内九十度位におり晴
 と續き久しく降雨無き
 小生世學不才の僻地の塾
 生あるは是れ御見控なく
 御指導下さりて大幸
 不遇之由

もし今後弊地は小生を御前に
合点なき御用と致さるるに

何事の命じ御交り
御に有希

暑と酷烈の季以降

折角に御自重に往

奉希
望